

市政ニュース

ありがとう、さようなら「西気小学校」
そして、新たなスタート



▲西気小学校児童全員による「そうだる節」

3月24日、市立西気小学校（日高町東河内）の閉校式を行いました。同校は、明治7年に大円寺本堂を借りて開校。以来138年の歴史に幕を降ろしました。

当日、閉校式の前に、地域主催による「神鍋火山太鼓」が披露されました。

式典では、関係者のあいさつのほか、校歌斉唱や校旗返還のセレモニー、思い出のスライド上映などを行い、全児童が「そうだる節」を踊りました。

また、閉校式の後、「西気明



▲清滝小学校と西気小学校の統合式

日のいしずえ」と刻んだ記念碑の除幕式を地域が行い、参加者全員で風船を大空に向けて飛ばしました。

4月から新たなスタート。8日には市立清滝小学校（日高町山宮）との統合式を行い、新しい清滝小学校の門出を祝いました。式で、中貝市長は「子どもたちが両校の歴史を受け継ぎ、新しい学びを紡ぐことを期待します」とあいさつしました。

9日には入学式が行われ、児童の笑顔があふれていました。

記憶を未来に引き継ぐ 市役所現本庁舎曳家の記録映像完成

平成24年2月に実施した市役所現本庁舎の曳家の様子を現場作業員の表情などを盛り込みながら記録映像としてまとめました。

5日間で約3千トンの現本庁舎が南へ約25メートル移動する歴史的瞬間とその工事の過程を動画で見ることができ

映像は、市ホームページや各地区公民館で視聴できるほか、DVDを図書館本館・各分館で借りることができます。

【現本庁舎曳家工事の概要】

- ・現本庁舎竣工 昭和2年
- ・3階部分増築 昭和27年
- ・大きさ・幅約33m×奥行約20m×高さ約21m
- ・重量・約3千トン

あさくらゆうさんに感謝状を贈呈しました

3月19日、市は歴史研究家のあさくらゆうさんに感謝状を贈呈しました。

あさくらさんは、NHK大河ドラマ「八重の桜」の登場人物・出石藩出身の川崎尚之助の消息を追い、新史料を発掘しました。

これにより、尚之助が鶴ヶ城開城前後に逃げ出したとの説がくつがえり、戊辰戦争後も元会津藩（斗南藩）士と行動を共にし、藩の人々の飢餓を救うために献身的に尽くしたことを証明しました。出石の願成寺で用われたことも分かりました。



▲(左から)川崎ちづ代さんと修さん(出石藩川崎家子孫)、あさくらゆうさん、中貝市長

また、昨年12月に出版した「川崎尚之助と八重」を通して、尚之助の存在と一途で誠実な人物像を世に広め、市民に誇りを与えていただきました。

主な市政の動き

【3月】

- 19日・あさくらゆうさんに感謝状贈呈
- 22日・川崎尚之助ホームページリニューアル
- 24日・西気小学校閉校式

- 26日・豊岡市コウノトリ野生復帰学術研究発表会
- 27日・六方川排水機場竣工式
- 28日・豊岡市若者自立支援対策連絡会議発足
- 28日・豊岡市都市計画審議会
- 湯の原オートキャンプ場ペレットボイラー点火式

【4月】

- 1日・市立デイサービスセンター（11施設）を民間事業者に移管
- 豊岡防災公園トイレ供用開始
- 7日・日高消防団消防初出式
- 8日・清滝・西気小学校統合式
- 30日・五荘奈佐幼稚園舎竣工式
- 29日・神鍋線「上限200円バス社会実験事業」協定書締結式

大都市圏企業の社員を

市職員として迎えました

市は、総務省の「若手企業人地域交流プログラム」を活用し、4月から、大都市圏企業の社員派遣を受け入れています。企業社員の視点や活力を生かし、地域の魅力や価値の向上につなげ、地域の活性化や大都市圏とのネットワークの形成を図ります。

本市に迎えたのは、楽天トラベル(株)の佐藤暢祐さんと(株)日立製作所の椎原省悟さん。



▲(左から)佐藤暢祐さんと椎原省悟さん

本市環境経済部大交流課の職員として、1年間、大交流や海外戦略の推進に努めます。

三条市に避難されている被災者の皆さんからお礼の品が届きました

市は、三条市に避難されている方々へ、平成23年3月に新一年生へのランドセルなどを贈って以来、支援を続けています。昨年末にも「お正月産品」の贈り物を届けました。

4月2日、「豊岡の皆様へ、お礼の気持ちをお伝えしたい」と、避難者の発案で作製された人形などが届き、感謝のメッセージを収めたDVDも添えられていました。



▲送られてきたパソコンモップ人形

・パソコンモップ人形53個
・トイレトパーホルダー人形「がんばる象さん」7個
・感謝の気持ちが綴られた手紙12通、色紙2枚

豊岡市スポーツ施設ガイドブック「IKOIKO」の発行

スポーツ合宿やスポーツ大会を豊岡市に誘致するため、スポーツ施設ガイド「IKOIKOスポーツ合宿」を作成しました。

ガイドには、野茂英雄さん(NOMOベースボールクラブ代表理事)のインタビュアを掲載し、市内のスポーツ関連施設を地域別に紹介。ゴルフ場やスキー場、グルメや温泉施設などの関連情報、医療施設や詳細なアクセスガイドも掲載しています。

これにより、「スポーツ拠点豊岡」を発信し、スポーツ施設の有効活用を進め、スポーツ振興や地域の活性化を図ります。



▶スポーツ施設ガイド「IKOIKO」
O「スポーツ合宿」

中貝市長の徒然日記 ⑥

乗って守ろう

3月下旬、「乗って守ろう神鍋線」集会がありました。昨年度、バス運賃を上限200円に下げ、利用者数を2倍に増やす社会実験をしました。結果は、目標の73%に止まり、市のバス会社への赤字補てんは増えました。

が、いい兆候もありました。村を挙げて利用していただいた区もありました。高校生がバスに戻ってきました。

実験期間は1年の約束でした。しかし、「もう一度チャンスを欲しい」という沿線地区の皆さんの熱意に負け、もう1年延長することにしました。「今度こそ、乗って守るぞ」危機感をあらわにした関係者の決起集会でした。

夜。バスでやってきた、会場いっぱいの人たち。全但バスの社長や労組委員長を始め、社員たち。市職員。真顔です。地元代表、全但バス社長の決意表明の後、突然社員たちがぞろぞろと前に出てきました。その数ざっと30人。

神鍋線で行った乗客アンケートでは、「運転手の接客態度がなっていない」「私たちには、彼らは何を求めているのか」という厳しい意見がありました。社内での真剣な議論を踏まえ、「私たちは、気持ちのいい運行をします」という宣言がなされました。社員が持っていた大きな布には、「挑戦!」と書かれていました。

私は、心が熱くなりました。バスの利便性も上げました。バス停を増やし、増便し、利用しやすい経路にし、一部希望の場所所降りられるフリー降車制度も設けました。

昨年度予算編成時、社会実験の許可を求める担当職員に私はこう尋ねました。「目標が達成できなければ腹を切る覚悟があるか?」「はい!」

「あのとき、そう言ったよな」「はい」で、どうするんだ」「一軒一軒、乗っていただくようお願いして回ります!」職員たちは、関係者と共に、沿線の一軒一軒、バス利用を訴えてまいります。